◆複数スイッチにまたがる VLAN の作成

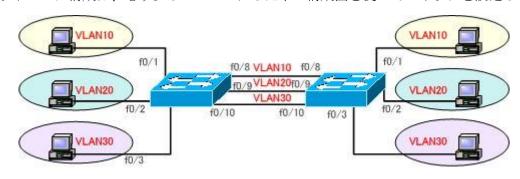
複数のスイッチにまたがる VLAN を作成する場合は、どうすればいいのでしょうか?

例えば、VLAN10、VLAN20、VLAN30を2台のスイッチで作成する場合は、以下の図のように構成します。



後ほど紹介する、トランクを使用しなければ、VLAN の数だけスイッチ間のケーブル接続が必要になります。

それでは、ネットワーク構成は、もう少しシンプルにした下の構成図を使ってスイッチを設定しましょう!



<Switch_A の VLAN の割り当て>

f0/1 ・・・ VLAN10 (PC 接続用)

f0/2 ・・・ VLAN20 (PC 接続用)

f0/3 ・・・ VLAN30 (PC 接続用)

f0/8 ・・・ VLAN10 (スイッチ間接続用)

f0/9 ・・・ VLAN20 (スイッチ間接続用)

f0/10 ・・・ VLAN30 (スイッチ間接続用)

<Switch_B の VLAN の割り当て>

f0/1 ・・・ VLAN10 (PC 接続用)

f0/2 ・・・ VLAN20 (PC 接続用)

f0/3 ・・・ VLAN30 (PC 接続用)

f0/8 ・・・ VLAN10 (スイッチ間接続用)

f0/9 ・・・ VLAN20 (スイッチ間接続用)

f0/10 ・・・ VLAN30 (スイッチ間接続用)

「Switch_A ⇔ Switch_B」間の配線は次のように接続します。クロスケーブルで接続します。

Switch_A		Switch_B
VLAN10 のインタフェース f0/8	\Leftrightarrow	VLAN10 のインタフェース f0/8
VLAN20 のインタフェース f0/9	\Leftrightarrow	VLAN20 のインタフェース f0/9
VLAN30 のインタフェース f0/10	\Leftrightarrow	VLAN30 のインタフェース f0/10

●Switch A の設定

Switch_A (config)#vlan 10

Switch_A (config-vlan)#name vlan10

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A (config)#vlan 20

Switch_A (config-vlan)#name vlan20

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A (config)#vlan 30

Switch_A (config-vlan)#name vlan30

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A(config)#int f0/1

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_A(config-if)#int f0/2

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_A(config-if)#int f0/3

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_A(config-if)#int f0/8

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_A(config-if)#int f0/9

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_A(config-if)#int f0/10

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_A(config-if)#end

●Switch Bの設定

Switch_B (config)#vlan 10

Switch_B (config-vlan)#name vlan10

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch_B (config)#vlan 20

Switch_B (config-vlan)#name vlan20

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch_B (config)#vlan 30

Switch B (config-vlan)#name vlan30

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch B(config)#int f0/1

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_B(config-if)#int f0/2

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_B(config-if)#int f0/3

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch B(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_B(config-if)#int f0/8

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_B(config-if)#int f0/9

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_B(config-if)#int f0/10

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_B(config-if)#end

設定が完了したら、<u>VLAN10 に所属する端末同士の通信(ping)、VLAN20 に所属する端末同士の通信、</u> <u>VLAN30 に所属する端末同士の通信ができることを確認。</u>同じ VLAN に所属する端末同士であれば通信可能です。

※勿論、他の VLAN には通信できません! ←解決は後で

★問題点

このネットワーク構成では、VLAN の数だけスイッチ間のケーブル接続が必要になります。 また、ポート数で考えると、VLAN の数 \times 2」のポート数を失ってしまうことになります。 このように、複数のスイッチにまたがって VLAN を設定するとケーブリングも煩雑になってしまいますし、スイッチ間の接続でたくさんのポートを失ってしまうことになります。

この問題を解決するには、トランクという技術を使用します。

トランクを使用すると1本のケーブルで複数のVLAN間を流れるトラフィックを伝送することができます。

◆トランクとタギング (ISL、IEEE802.1Q)

複数のスイッチにまたがる VLAN を作成する場合は、どうすればいいのでしょうか?

例えば、VLAN10、VLAN20、VLAN30を2台のスイッチで作成する場合を考えてみます。

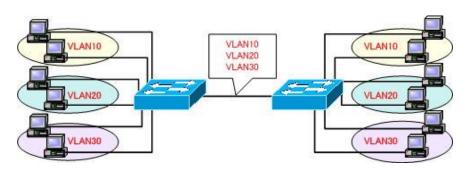
トランクポートを設定しない場合は、下の図のようなネットワーク構成になります。

<トランクを使用しない場合の構成>



複数のスイッチにまたがって VLAN を設定するとケーブリングも煩雑になってしまいますし、スイッチ間の接続で、たくさんのポートを失ってしまうことになります。

トランクポートを設定する場合、下の図のような、ネットワーク構成になります。 <トランクを使用した場合の構成>



トランクポートを設定すると、1本のケーブルに複数の VLAN 情報を伝送することができます。 煩雑だったケーブリングもすっきりし、スイッチ間の接続で失ってしまうポート数も減り、ポートの使用効率が高くなります。

トランクを設定するには、複数の VLAN 情報を伝送したいポートにトランクポートの設定を行います。トランクを使用するには、トランキングプロトコルである ISL、もしくは、IEEE802.1Q を使用します。 %ISL は、Cisco 独自のプロトコルです。

●ISL のフレームフォーマット

ISL は、**Ethernet フレームを ISL でカプセル化**を行い、ISL ヘッダ内の「VLAN ID」フィールドで、どの VLAN からのフレームであるかを識別しています。

<Ethernet フレーム>

DA SA Et	her Data	FCS
----------	----------	-----

<ISL フレーム>

ISL DA SA Ether	Data	FCS	ISL FCS
-----------------	------	-----	------------

●IEEE802.1Q のフレームフォーマット

IEEE802.1Q は、Ethernet フレームの内部にタグを埋め込みます。この埋め込んだタグを見て、どの VLAN からのフレームであるかを識別しています。

<Ethernet フレーム>

DA	SA	Ether Type	Data	FOS
----	----	---------------	------	-----

<IEEE802.1Q フレーム>

DA SA	Tag Ether Type	Data	FCS
-------	----------------	------	-----

トランクの設定を行う際には、スイッチがどのトランキングプロトコルをサポートしているか把握しておきましょう!

Catalyst1900 ・・・ ISL のみサポート

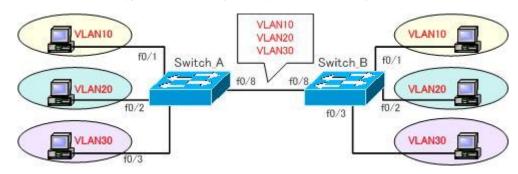
Catalyst2900XL · · · ISL, IEEE802.1Q

Catalyst2950 ・・・ IEEE802.1Q のみサポート

Catalyst1900 と Catalyst2950 では、共通でサポートするトランキングプロトコルがないので、トランク接続できないので注意して下さい。

◆トランクの設定 (switchport mode trunk)

下の図のようにネットワークを配線しトランクの設定を行ってみましょう!



「f0/8」のポートにトランクの設定を行って、VLAN10~VLAN30 のフレームをスイッチ間で、 伝送できるようにします。トランキングプロトコルには、IEEE802.1Q を使用します。

<Switch AのVLANの割り当て>

f0/1 ・・・ VLAN10 (PC 接続用)

f0/2 ・・・ VLAN20 (PC 接続用)

f0/3 ・・・ VLAN30 (PC 接続用)

f0/8 ・・・ トランクポート

<Switch_B の VLAN の割り当て>

f0/1 ・・・ VLAN10 (PC 接続用)

f0/2 ・・・ VLAN20 (PC 接続用)

f0/3 ・・・ VLAN30 (PC 接続用)

f0/8 ・・・ トランクポート

◆トランクポートの設定

トランクポートで使用するトランキングプロトコルは、両側であわせておく必要があります。トランクの設定を行うには、目的のインタフェース設定モードで「switchport mode trunk」コマンドを使用します。

●Catalyst2950 スイッチ

Catalyst2950 スイッチでは、トランキングプロトコルに、IEEE802.1Q しか使用できないので、ポートのモードをトランクにするだけで設定できます。

Switch(config-if)#switchport mode trunk

●Catalyst2900XL スイッチ

Catalyst2900XL スイッチでは、トランキングプロトコルに、IEEE802.1Q、ISL が使用できるので、カプセル化の指定が必要です。

Switch(config-if)#switchport mode trunk
Switch(config-if)#switchport trunk encapsulation {dot1q | isl}

ここでは、2台共に、Catalyst2950スイッチを使用します。

●Switch_A の設定

Switch_A (config)#vlan 10

Switch_A (config-vlan)#name vlan10

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A (config)#vlan 20

Switch_A (config-vlan)#name vlan20

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A (config)#vlan 30

Switch_A (config-vlan)#name vlan30

Switch_A (config-vlan)#exit

Switch_A(config)#int f0/1

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_A(config-if)#int f0/2

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_A(config-if)#int f0/3

Switch_A(config-if)#switchport mode access

Switch_A(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_A(config-if)#int f0/8

Switch_A(config-if)#switchport mode trunk

Switch_A(config-if)#end

●Switch_B の設定

Switch_B (config)#vlan 10

Switch_B (config-vlan)#name vlan10

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch_B (config)#vlan 20

Switch_B (config-vlan)#name vlan20

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch_B (config)#vlan 30

Switch_B (config-vlan)#name vlan30

Switch_B (config-vlan)#exit

Switch_B(config)#int f0/1

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 10

Switch_B(config-if)#int f0/2

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 20

Switch_B(config-if)#int f0/3

Switch_B(config-if)#switchport mode access

Switch_B(config-if)#switchport access vlan 30

Switch_B(config-if)#int f0/8

Switch_B(config-if)#switchport mode trunk

Switch_B(config-if)#end

設定が完了したら、VLAN10 に所属する端末同士の通信(ping)、VLAN20 に所属する端末同士の通信、VLAN30 に所属する端末同士の通信ができることを確認します。同じVLAN に所属する端末同士であれば通信可能です。 ※他のVLAN への通信にはルータもしくはL3SW が必要。

●show interface {ポート番号} switchport

「show interface {ポート番号} switchport」コマンドを使用すると、ポートのモード、トランクのカプセル化、 プルーニングに関する情報など、VLAN 設定に関する情報の確認が行えます。

Switch_A#show interfaces f0/8 switchport

Name: Fa0/8

Switchport: Enabled

Administrative mode: trunk

Operational Mode: trunkAdministrative Trunking Encapsulation: dot1q

Operational Trunking Encapsulation: dot1q

Negotiation of Trunking: Disabled Access Mode VLAN: 0 ((Inactive))

NT43 Cisco 資料 11 SW5 VLAN トランクリンク(12 月 18 日)

Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)

Trunking VLANs Enabled: ALL
Trunking VLANs Active: 1,10,20,30

Pruning VLANs Enabled: 2-1001

Priority for untagged frames: 0 Override vlan tag priority: FALSE

Voice VLAN: none

Appliance trust: none

以上!